

神宮と伊勢のまちを伝える

O I S E S A N N E W S

# お伊勢さんニュース

(有)伊勢文化舎 / 〒516-0008 三重県伊勢市船江 2-22-25 TEL 0596-23-5166 FAX 0596-23-5241 E-mail otayori@isebito.com

東京講座号 第1号

リーフレット版

- 企画・発行 伊勢文化舎
- 発行日 令和5年11月1日
- 後援 神宮司庁
- 協力 東京大神宮



倭姫命は長い旅の末、天照大御神のお告げを聴いた。

「この神風の伊勢の国は、常世の浪の重浪帰する国なり。

傍国のうまし国なり。この国に居らむと欲う。」（『日本書紀』）

冬至のころの宇治橋（内宮）

# さあ、「伊勢の三宮参り」に出かけよう！

外宮 → 内宮 → 倭姫宮

お伊勢参りは昔から、外宮と内宮を参拝する「両宮参り」が習わし。締めくくりは、神宮創建に大役を担った古代の姫を祀る倭姫宮へお参りに――。

## 外宮

げくう

御饌殿では毎日、朝に夕に、神さまのお食事をととのえ、お供えする神事が行われる。

森の中の参道を進むと、正宮の豊受大御神をはじめ、宮域には十四の宮社があります。祭神の豊受大御神は豊かな食物の神で、衣食住、ひいては諸産業の守り神。ご正殿のそばの御饌殿では朝と夕方、天照大御神のために御饌（食事）を調え、お供えています。



古殿地から外宮正殿を望む

表参道の左手、勾玉池のほとりに建つのは博物館「せんぐう館」。

## 内宮

ないくう

外宮正殿の一部分を再現した原寸大模型をはじめ、多数の展示品と映像から、二十一年一度の式年遷宮の意義が体感できます。

◆近鉄・JR伊勢市駅から徒歩約5分。

宇治橋を渡ると、深い緑に包まれた神域。自然の精気を感じながら、参道を正宮へ。

五十鈴川のほとりの広い神域に、正宮の皇大神宮をはじめ、十三の宮社があります。祭神の天照大御神は皇祖神であり日本人の総氏神さま。生命を育み、恵みを与えてくださる神さまで、太陽にもたとえられ、神話では日本人の主食にするよう稲を授けてくださったと伝えられます。内宮前に続く「おはらい町」には、参拝者をもてなす土産・飲食店などが連なり、中ほどにある「おかげ横丁」は、お蔭参りが起こった江戸から明治期の伊勢路の代表的な建物を移築・再現しています。



内宮ご正殿前

## 倭姫宮

やまとひめのみや

内宮と外宮を結ぶ御幸道路。そのちょうど中間地点あたり、「文化の森」倉田山に鎮座する。

内宮の別宮で、神宮では一番新しく大正12年（1923）に祀られたお宮です。祭神の倭姫命は第十一代垂仁天皇の皇女。

# 「伊勢神宮のはじまりと倭姫命」東京講座

倭姫宮ご鎮座一〇〇周年記念

皇女・倭姫命は天照大御神の御教えにより、伊勢の五十鈴川のほとりに大御神を御鎮座されたと、『日本書紀』は伝えています。これが伊勢神宮のはじまりで、今から約二千年前のことです。倭姫命は、その後も伊勢志摩の地で、多くの働きをされました。今年が命がお祀りされている倭姫宮のご鎮座一〇〇周年を迎えます。東京大神宮と伊勢文化舎では、これを記念して「伊勢神宮のはじまりと倭姫命」をテーマに三人の専門家による「東京講座」を開催します。

新春には「伊勢の三宮参り」として、外宮―内宮とともに倭姫宮もお訪ねください。

### 講座のご案内

とき/令和5年12月1日(金)  
18時30分～20時30分まで(予定)  
\*18時～神宮司庁制作「倭姫命の旅」の映像上映

会場/東京大神宮マツヤサロン4階  
「五十鈴の間」(東京都千代田区)  
飯田橋駅徒歩5分

講師/皇學館大学名誉教授 櫻井治男氏  
神宮司庁広報室次長 音羽 悟氏  
文筆家 千種清美氏

定員/100名(申込順) \*入場無料

共催/東京大神宮、(有)伊勢文化舎  
後援/神宮司庁  
協力/NPO法人 ちんじゅの森  
参加の申し込みは3ページに



倭姫宮の表参道入口

大和から伊勢へ天照大御神の御杖代となつて永遠の鎮座地を求めて巡行され、神宮のはじまりに多くの功績を残されたことが伝えられています。



★東京―名古屋 新幹線(のぞみ) 約1時間40分  
近鉄名古屋―宇治山田(特急) 約1時間25分

隣接する緑あふれる苑地には、神宮の総合博物館「神宮徴古館」をはじめ「神宮美術館」「神宮農業館」があり、文化や芸術を楽しむひとときが過せれます。

◆内宮前から「徴古館」經由伊勢市駅前行きバス約10分「神宮徴古館前」下車、徒歩3分。帰りは伊勢市駅前行き約10分。

ここに深く響く倭姫命の言葉に、現代人が学ぶものは？

千種 清美氏

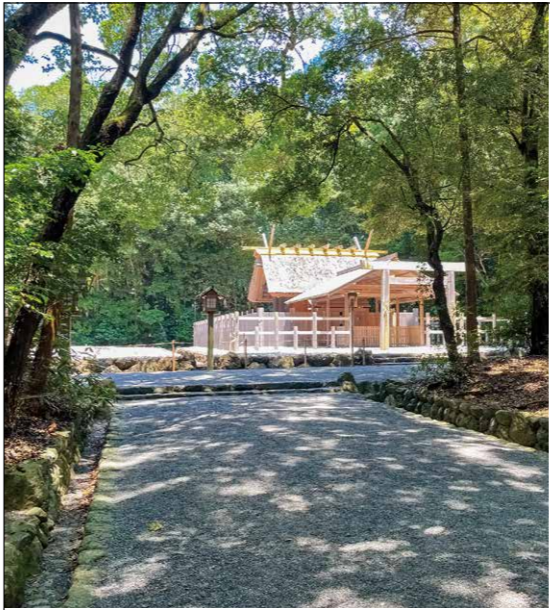
倭姫命の巡行には地方の豪族が帰順していった、なぜか？

音羽 悟氏

カミを祀る人から祀られるカミに、倭姫命は昇華されていた。

櫻井 治男氏

皇女・倭姫命とはどんな人物か、  
文筆家の千種氏は史書に記された  
言葉から紐解く。巡行の目的を伝  
承地から解説するのは神宮司庁広  
報室次長の音羽氏。皇學館大学名  
誉教授の櫻井氏は、倭姫命に対す  
る崇敬と敬意を歴史的にたどる。



倉田山の丘陵地に鎮座する倭姫宮

倭姫命が祀られている倭姫宮は、神宮に百二十五ある宮社の中では飛びぬけて創建が新しいお宮です。しかし一方で、伊勢神宮二千年の歴史は、そもそも倭姫命から始まったとされています。  
今回の講座のテーマ「伊勢神宮のはじまりと倭姫命」では、『古事記』『日本書紀』といった神話の時代まで遡り、①倭姫命という人物像、②大和国から伊勢国に到る長い巡行の意味、③皇女・倭姫への信仰の歴史と宮社創建への願いについて、それぞれ専門家がお話しします。いわば「うまし国」伊勢の神話の時代へ、また百年前の伊勢の町への「東京からの歴史旅」といえるでしょうか。講演の前には、神宮司庁の制作による「倭姫命の旅」の映像上映があり、また講演終了後には、参加者の皆さまとの意見交換会も計画しています。ぜひ、ご参加ください。

# 倭姫命とは？ 命に学ぶ こととは

文筆家  
千種 清美氏



(ちくさ きよみ) …地域誌『伊勢志摩』編集長を経て独立。著書に『女神の聖地 伊勢神宮』(小学館新書)、近著に『伊勢西国三十三所観音巡礼〜もう一つのお伊勢参り』(風媒社)がある。

日本には遙か昔から、重要な任務を負われた皇女が数多おられます。

なかでも古代、皇室の祖先につながる神、天照大御神が鎮まる聖なる地を、探す長い旅をしたのが、十一代垂仁天皇の娘、倭姫命。つまり、伊勢神宮の始まりはこの皇女の旅を経てのことなのです。「ヤマト」と冠した名の女性性は、皇女のなかでも特別な存在だったことがうかがえます。

倭姫命は、日本神話の重要な場面に登場します。東国平定のため、伊勢に立ち寄った日本武尊に、倭姫命は一振りの神剣を渡します。その際、「憤りてな怠りそ」という言葉をかけています。「用心して油断してはいけません」。日本武尊は東征の旅中、豪族にだまされ

▶倭姫命の和紙人形(阿部夫妻子作、おかげ座・神話の館で展示)



れ、野原で火に囲まれてしまいました。その際、倭姫命から授かった神剣で周囲の草をなぎ払い、火の勢いをしずめ、九死に一生を得ます。

そのため、その神剣は草薙剣と呼ばれるようになり、今は三種の神器の一つとして、愛知県熱田神宮に祀られています。倭姫命の大いなる力に、日本武尊は守られたことを伝えていきます。

倭姫命の言葉として受け継がれているものがあります。「左左右右、元元本本」。左のものは左に、右のものは右に、左のものを右にしたり、右のものを左にしたりはいけない、元を大切に、という意味です。伊勢神宮の始まりに関わった倭姫命ゆえに心に深く響く言葉です。

古の皇女、倭姫命はどのような方だったのでしょうか。皆さまと一緒に考えていきたいと思います。

# 御鎮座地を もとめて旅に出る 巡行の目的

神宮司庁広報室次長  
音羽 悟氏



(おとわ さとる) …神宮研修所教員、皇學館大学神職養成室明階総合課程検定講師も務める。著書に神道文化叢書第39輯『悠久の森―神宮の祭祀と歴史』ほか。

皇大神宮(内宮)をご創建になった倭姫命は、神嘗祭をはじめとする年中のお祭りや神田ほか各種の御料地などをお定めになり、斎戒や祓の法をお示しになるなど、神宮のお祭りと経営の規模を確立されました。倭姫命の御巡行は、養老4年(720)編纂の『日本書紀』や延暦23年(804)撰述の『皇太神宮儀式帳』、鎌倉時代に度会氏によって編集された『倭姫命世記』等に記されています。

書紀によると、垂仁天皇25年2月に天皇は、阿倍臣・和珥臣・中臣連・物部連・大伴連等の五大夫を召し、豊鍬入姫命から倭姫命に引き継がされて、さらに天照大御神の永遠の鎮座の処を求めよう命ぜられました。それを

承った倭姫命は、大御神を奉じて菟田(奈良県)の篠幡・近江国・美濃国と経巡って伊勢国に至りますが、儀式帳は伊賀国を含めた15カ所、世記ではさらに尾張国も含めて27カ所も訪ねられています。この伝承地の違いについて、わかりやすく説明します。

また儀式帳には、巡行の途次にあったる国造(大倭・伊賀・伊勢)や県造(川俣・安濃・志志・飯高・佐奈)、竹首等が、神御田と神戸を献上する記事が見られます。これらはその地方の豪族が次々に帰順していったことを示す傍証となります。また一方では、倭姫命御一行が神戸を定め、農業の技術を伝えたとの学説もあります。この点についても掘り下げて解説致します。

# 倭姫宮の 創建と倭姫命

皇學館大学名誉教授  
櫻井 治男氏



(さくらい はるお) …専門は宗教学、近代神道・神社祭祀研究。神道宗教学会奨励賞受賞(1992年)、南方熊楠賞受賞(2018年)。近著に『地域神社の宗教学』『知識ゼロからの神社入門』『日本人と神様―ゆるやかで強い絆の理由』など。

倭姫命が諸国巡行の最終場面で、天照大御神を常世の波が打ち寄せる「う

まし国」伊勢に鎮祭されたのが、今からおよそ二千年前のこと。その大きな業を成就された姫君を奉斎するお宮の創建は百年前。神宮の長い歴史のなかでは、とても新しい出来事となっています。この大きな時間幅で、倭姫命は、カミを祀る人から祀られるカミへと昇華されたように見えます。果たしてそれだけのことでしょうか。もっと根源的な何かがあるかも知れません。その転換にはどのような物語があったのでしょうか。

倭姫宮創建への願いは明治時代から伊勢の地で沸き起こり、大正時代には大きなうねりとなって、皇大神宮(内宮)の別宮として、斎宮・離宮院の旧蹟案を押さえ、



二見の神前海岸(近くに神前神社がある)

外宮と内宮との中間地、倉田山の地を新たに卜して創立されました。地元では、宮地を鎮める「鎮地祭」と御神霊の鎮まる「鎮座祭」に全市をあげた奉祝の催しが行われました。それに当たり、奉祝行列で人々が高唱する行進の歌も新たに作られました。

なかでも御鎮座祭が行われた大正12年11月5日の翌日は、女子生徒たち約二千六百人が外宮・内宮・倭姫宮という「三宮」を、手に旗を持ちながら軽やかに晴れやかな歌声を響かせで晴れやかな歌声を響かせで巡拝しました。当時の奉祝の様子も交え、倭姫命への「敬仰」と「奉養」の歴史を、命がお祀りされているゆかりのお社、東京大神宮でたどってみたいと思います。

## プログラム

- 17時30分 開場
- 18時00分 神宮司庁制作「倭姫命の旅」上映  
30分 開演 / 講座

- ・倭姫命とは？ 命に学ぶこととは  
千種 清美氏
- ・御鎮座地をもとめて旅に出る 巡行の目的  
音羽 悟氏
- ・倭姫宮の創建と倭姫命  
櫻井 治男氏

- 休憩
- ・意見交換会  
(参加者からの質問コーナー)

20時30分 終了(予定)



会場の東京大神宮

## 参加のお申込み

- ・ハガキ、FAX、メールでお申し込みください。
- ・名前、住所、電話番号をご記入ください。  
(電話での申込みはできません)
- ハガキ 〒516-0008 伊勢市船江 2-22-25  
伊勢文化舎内 東京講座係
- メール otayori@isebito.com
- FAX 0596・23・5241
- \*定員になり次第、締め切ります。
- \*参加の方には「令和6年版 伊勢講暦」(伊勢文化舎発行)を差し上げます。

お問合せ / TEL 0596・23・5166